

疾患を持つ子供に対する父親の役割に関する研究

西林洋平, 大村 勉

要約：子供が入院した場合の父親の役割を知るてがかりとして、父親の面会率を調査した。平均面会率は72.6%と良好で、疾患、病期などによる差は少なかった。感染症、外科疾患では、祖父母と同居の有無により父親の面会率に差がみられた。

《研究方法》

1)対象

1990年3月より1991年1月までに、松山赤十字病院小児病棟に3日以上入院した小児932例のうちアンケートを回収できた357例（回収率38.4%）、及び新生児・未熟児室に1990年3月以降に入院し11月末までに退院した74例のうち29例（回収率39%）である。

2)方法

小児病棟に入院した症例については、付き添い者にアンケート用紙を配布し、父親の面会日を記録してもらい、退院時に回収した。また、父親の職業、祖父母と同居の有無についても調査した。未熟児新生児室に入院した症例は、担当の看護婦が父親の面会日を記録する方法をとった。

《結果及び考察》

1)患児への付き添い

大多数は母親が付き添いをし、祖母の付き添いは3.9%、父親と交替が1.6%、父親の付き添いは1例のみであった。

2)面会率

母親あるいは祖母が付き添いをしている症例を対象とした。各児の父親の面会率は、面会日数を入院日数で除して求め、百分率で示した。未熟児新生児を除く症例の平均面会率は72.6%であった。疾患別の面会率を表1に示した。

外科疾患、血液、悪性疾患の面会率は、他疾患に比して有意に低値であった。これは、外科疾患では、術後の経過が安定していること、悪性疾患は、寛解に入ったか寛解中の症例が殆どであることなどが原因と考えられた。未熟児、新生児では、出生体重、在胎週数などに関係なく、著しく低値であった。

松山赤十字病院小児科

表1. 疾患別面会率

感染症(105例) (呼吸器60例, 消化器16例, 尿路5例, その他24例)	77.1%
外科疾患(87例) (ヘルニア44例, 急性腹症14例, その他29例)	66.7
アレルギー疾患(38例) (気管支喘息18例, MCLS15例, 紫斑病4例, その他1例)	81.9
神経疾患(21例) (髄膜炎11例, けいれん7例, その他3例)	73.8
血液、悪性疾患(17例) (白血病9例, 固型腫瘍4例, その他4例)	54.0
心疾患(14例) (開心術3例, 心カテ11例)	72.1
その他(40例) (不明熱, 糖尿病, 自家中毒など)	82.7
未熟児、新生児(29例)	12.5

3) 病期における面会の頻度

各疾患群とも、病期による父親の面会頻度については、一定の傾向はみられなかった。なお、死亡例ではアンケートは回収できず、実態は不明である。

4) 入院日数による面会率の変化(表2)

入院日数による面会率を、症例数の多い感染症及び外科疾患で検討した。入院3~7日、8日以上以上の2群に分けると、感染症では、両者の面会率に有意差は認められなかったが、外科疾患では、8日以上入院の症例の方が面会率は有意に低値であった。

表2. 入院日数別の面会率

入院日数	感染症	外科疾患
3~7日	76.4%	76.9%
8日以上	72.3	60.2

5) 長期入院例

2年以上入院は3例である。各症例の概略及び父親の面会頻度を示す。

症例1) 8歳、女児、第2子。脳変性疾患にて気管切開。母親付き添い。月7~8回面会。

症例2) 17歳、男児、第1子。脳変性疾患にて人工換気療法中。付き添いなし。月8~10回面会。

症例3) 3歳、女児、第1子。新生児仮死後人工換気療法中。付き添いなし。毎週日曜日面会。

3例とも患児は父親を認識できないが、面会は予想以上の頻度であった。

6) 面会率に影響を与える因子

父親の面会率に影響を与える因子を検討するために、患児の年齢、兄弟中の順位、兄弟の数、両親の年齢、保険の種類、現住所(市内、市外の別)、祖父母との同居の有無を説明変数として、疾患別に重回帰分析を行った。なお、母親が付き添いをしている症例を対象とした。

感染症では、兄弟中の順位、兄弟の数、祖父母と同居の有無、外科疾患では、祖父母と同居の有無が説明変数として選択された(表3)。他の疾患では、症例数が少ないためか有意の関係は認められず、症例を増やして検討したい。

表3. 重回帰分析

Y(面会率), X_1 (患児の年齢), X_2 (兄弟中の順位), X_3 (兄弟の数), X_4 (父の年齢), X_5 (母の年齢), X_6 (祖父母との同居の有無), X_7 (現住所), X_8 (保険の種類)

感染症:

$$Y = 82.66 - 19.84X_2 + 15.72X_3 - 10.59X_8 \quad p < 0.05$$

外科疾患:

$$Y = 71.41 - 15.09X_8 \quad p < 0.05$$

感染症、外科疾患について個々に検討すると、感染症では、兄弟中の順位による面会率は、第1子(81%)、第2子(76.4%)、第3子(64.1%)の順で第3子が他に比し有意に低値であった。兄弟の数でみると、2人(78.1%)、1人(85.4%)、3人(62%)の順で子供3人の家庭の面会率が低値であった。祖父母と同居の有無については、同居している父親の面会率(65.2%)が同居していない者(81.7%)より有意に低値であった。

外科疾患でも同様で、祖父母と同居している父親の面会率56.8%に対し、同居していない父親の面会率75.3%であった。(p<0.05)同居の有無により面会率に差がでる理由について今後検討が必要であると考えられた。

表4. 祖父母と同居の有無による面会率

	感染症	外科疾患
同居有り	(25例)65.2%	(26例)56.8%
同居無し	(70例)81.7	(54例)75.3

《まとめ》

入院中の子供への父親の面会率は、72.6%と良好であった。面会するという行為がいかなる状況に左右され、また、父親のどういう意識のもとに行われているかについては、今後検討する必要があると思われた。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:子供が入院した場合の父親の役割を知るてがかりとして、父親の面会率を調査した。平均面会率は 72.6%と良好で、疾患、病期などによる差は少なかった。感染症・外科疾患では、祖父母と同居の有無により父親の面会率に差がみられた。